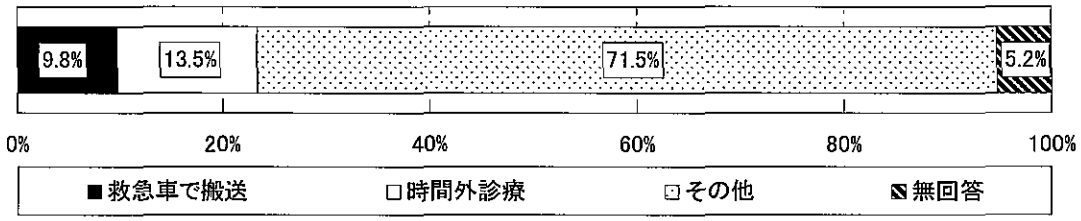
(4) 受診形態別　未収金件数・金額

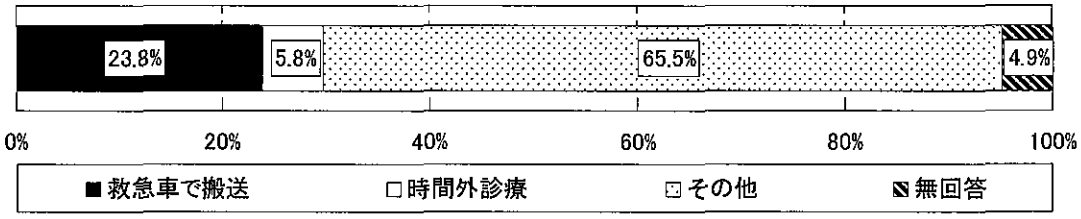
受診形態別に未収金件数をみると「救急車で搬送」が 9.8%、「時間外診療」が 13.5%だった。71.5%が「その他」で、時間内で通常の診療形態だったとみられる。(図表 33)

受診形態別に未収金の金額をみると「救急車で搬送」が 23.8%だった。(図表 34)

図表33　受診形態別　未収金件数　n=18,162



図表34　受診形態別　未収金の金額　n=891,155,681



受診形態別の 1 件あたりの平均金額をみると、「救急車で搬送」が 119,225 円だった。(図表 35)

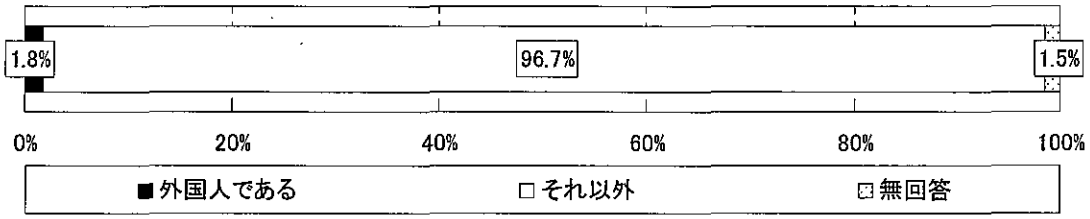
図表35　受診形態別　未収金の件数・金額

	未収入の件数	未収金の合計金額	1件あたり平均金額	標準偏差	中央値
全体	18,162	891,155,681	49,067.0	168,996.2	9,330.0
救急車で搬送	1,780	212,220,656	119,225.1	338,996.5	33,197.0
時間外診療	2,451	51,852,343	21,155.6	57,097.7	4,840.0
その他	12,980	583,661,205	44,966.2	144,695.7	8,805.0

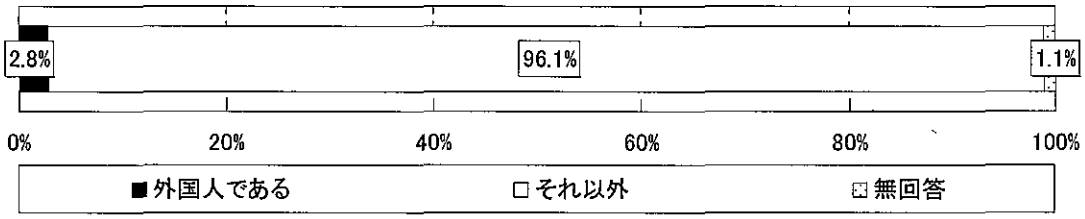
(5) 外国人の未収金件数・金額

未収金件数のうち、患者が「外国人である」は 1.8%(図表 36)、未収金の金額では 2.8%(図表 37)だった。

図表36　外国人の未収金件数　n=18,162



図表37　外国人の未収金の金額　n=891,155,681



未収金件数に占める外国人の比率を地域別にみると、「東海・北陸」で 4.4%、「関東甲信越」で 2.8%だった。(図表 38)

図表38　地域別　外国人比率

	未収金件数	外国人	比率
全体	18,162	323	1.8%
北海道	1,024	1	0.1%
東　北	2,444	8	0.3%
関東甲信越	5,049	142	2.8%
東海・北陸	2,770	122	4.4%
近　畿	3,064	34	1.1%
中国・四国	1,736	10	0.6%
九　州	2,073	6	0.3%

地域区分は以下のとおりとした。
北海道：北海道
東　北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東甲信越：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野
東海・北陸：富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重
近　畿：福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九　州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

未収金のある外国人患者の受診した病院の所在地の都道府県をみると、「愛知県」が74人で、全体の22.9%を占め、最も多かった。次いで、東京都40人（12.4%）、静岡県31人（9.6%）だった。（図表39）

図表39　都道府県別　外国人未収金患者数（上位7位まで）

	都道府県	外国人患者数	割合
1	愛知県	74	22.9%
2	東京都	40	12.4%
3	静岡県	31	9.6%
4	千葉県	28	8.7%
5	神奈川県	25	7.7%
6	栃木県	16	5.0%
7	長野県	10	3.1%
	その他	99	30.7%
	全体	323	100.0%

3. 未収金の理由・実態

(1) 未収の理由

患者から徴収されるべき費用が回収できない主な理由として、件数ベースでみると「分納中・分納交渉中のため」が16.6%と最も多かった。次いで「特に回収の働きかけをしていないため、理由が分からない」が12.3%だった。「生活に困っており、医療保険の自己負担の医療費を支払う資力はないようだ」が10.3%、「（支払い能力はあるようだが、）元々、支払う意思がないようだ」が9.6%だった。（図表40）

また、金額ベースでみると「分納中・分納交渉中のため」が21.1%と最も多かった。次いで、「生活に困っており、医療保険の自己負担の医療費を支払う資力はないようだ」が14.3%だった。（図表41）

【その他の具体的な記入内容】

「その他」の回答としては、

・「保険会社からの入金待ち」、

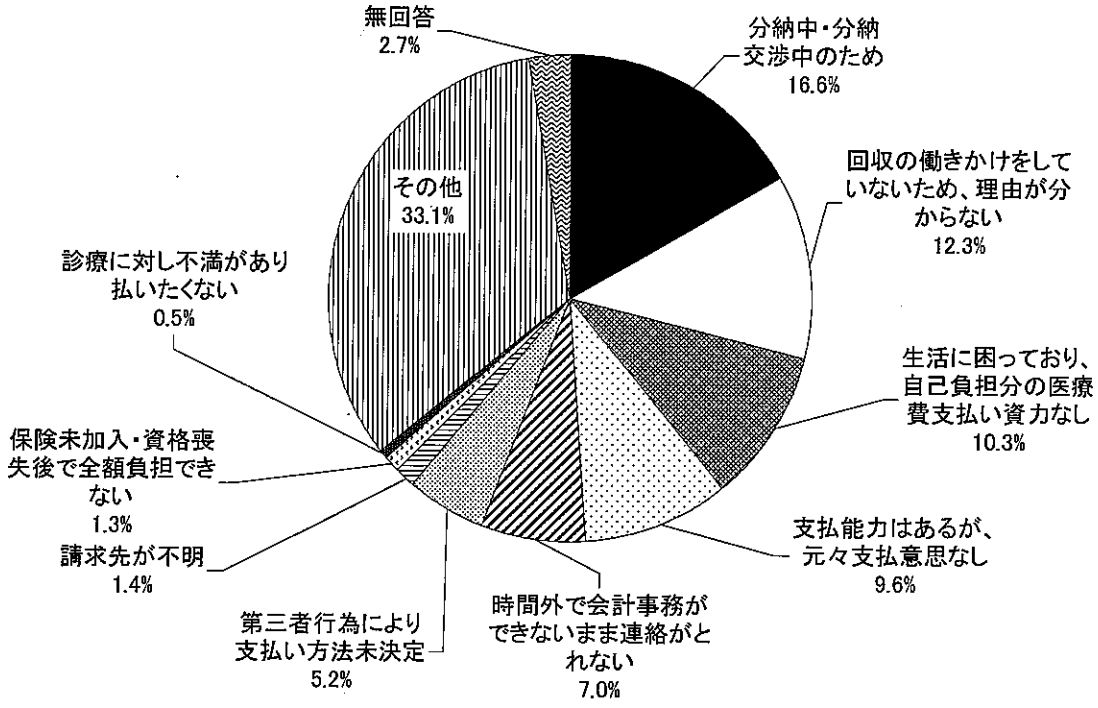
・「労災申請予定」「公費申請中」「高額療養費委任払い予定」、

・「次回来院時に支払い予定」「まとめて払われる予定」「遅れがちだが入金される」

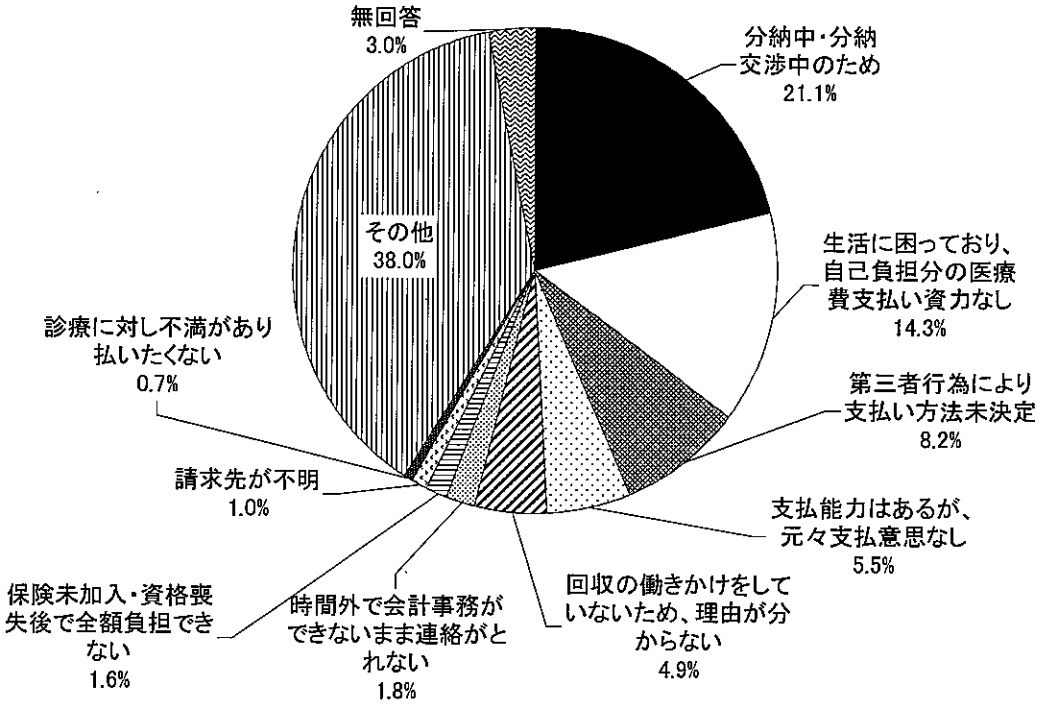
等の平成20年2月末日には入金されていないが、おそらくは近日中に支払われる見込みの回答が多かった。

これ以外では、「検査追加による追加請求発生分」や「忘れている」「早急に払わなければならないと思っていない」等があった。

図表40　未収の主な理由（最も近いもの１つ）（件数ベース）　n=18,162



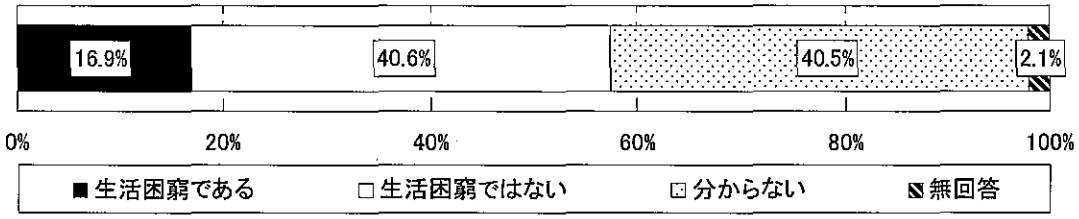
図表41　未収の主な理由（最も近いもの１つ）（金額ベース）　n=891,155,681



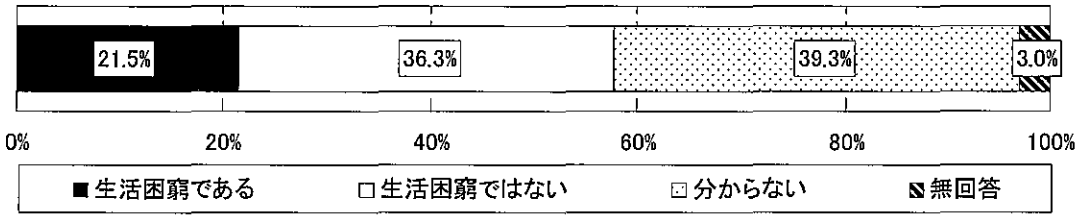
(2) 生活困窮の状況

各病院の担当者からみて「患者が今回の医療費を支払うだけの資力がないほどに生活に困窮しているか」をたずねたところ、件数ベースでは「生活困窮である」が 16.9%(図表 42)、金額ベースでは 21.5%(図表 43)だった。

図表42　生活困窮の状況（件数ベース）　n=18,162



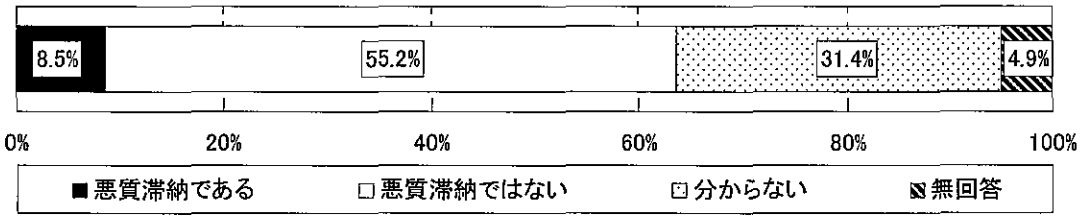
図表43　生活困窮の状況（金額ベース）　n=891,155,681



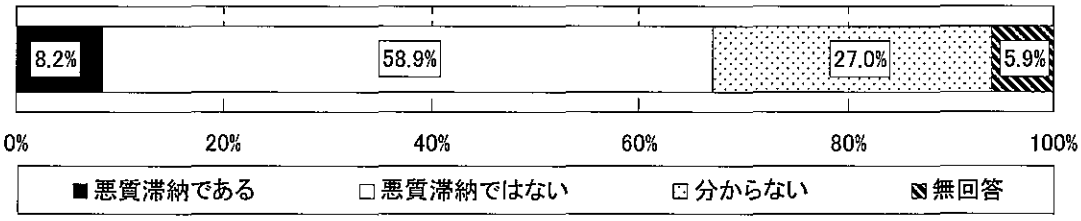
(3) 悪質滞納

各病院の担当者からみて「患者は支払い能力はあるようだが、最初から支払う意思がない、虚偽の申立をする、滞納を繰り返す、暴言を吐く等の『悪質な滞納』と思うかどうか」をたずねたところ、件数ベースでは、「悪質滞納である」が 8.5%(図表 44)、金額ベースでは 8.2%(図表 45)だった。

図表44　悪質滞納（件数ベース）　n=18,162



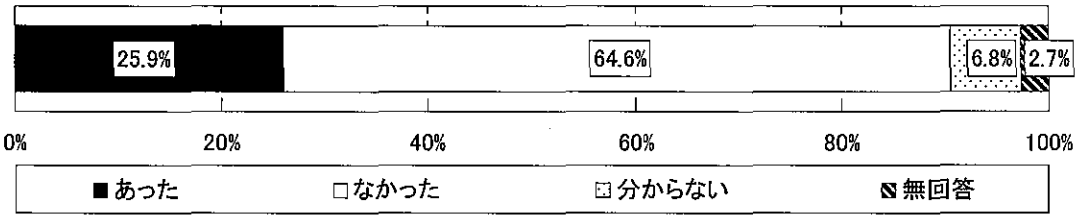
図表45　悪質滞納（金額ベース）　n=891,155,681



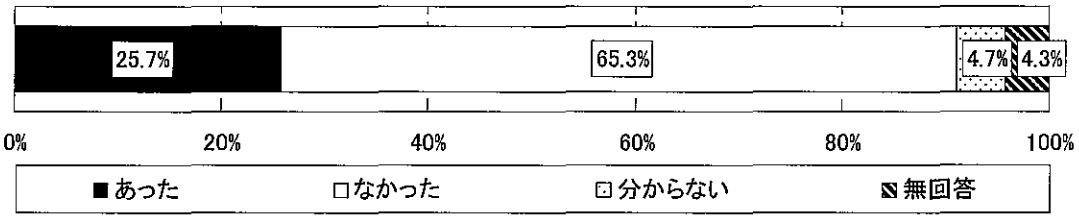
(4) 過去未収の有無

以前にも、回答病院において、診療費を支払わなかったことがあるかをたずねたところ、件数ベースで「あった」が 25.9%(図表 46)、金額ベースで 25.7%(図表 47)と約４分の１だった。

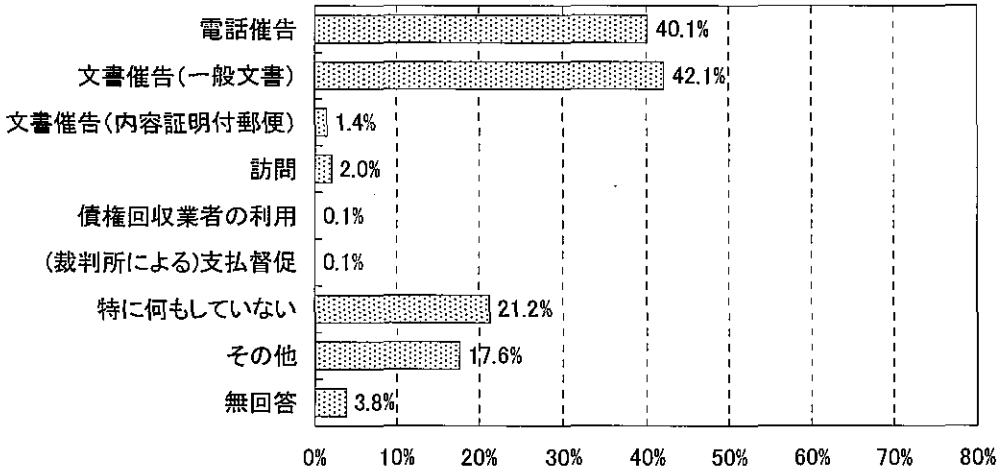
図表46　過去未収の有無　n=18,162



図表47　過去未収の有無（金額ベース）　n=891,155,681



4. 催告等の状況

未収に対して行った働きかけとしては「電話催告」が 40.1%、「文書催告（一般文書)」が 42.1%だった。「特に何もしていない」が 21.2%だった。(図表 48)

図表48　催告等の状況（複数回答）　n=18,162